

シラバス情報

1 ページ

科目情報

科目名称	大阪湾における次世代漁業の検討（地域実践演習）	配当年次	1	授業コード	A220230001		
開講年度	2017	単位数	2.0	開講時期	後期授業	科目分類	教養科目

代表教員情報

(カナ) 教員氏名	(オオツカコウジ) 大塚 耕司
--------------	--------------------

担当教員情報

大塚 耕司

時間割情報

水曜3コマ	B3-307		

メールアドレス等連絡先

オフィスアワー

大塚 月13:00~14:30

授業目標

本科目は、コミュニティーレベルでの活動の重要性を理解するとともに、地域再生に積極的に取り組むことのできるマインドを身につけることを目標とする。具体的には、以下の能力を身につけることを目標とする。

1. 大阪湾の環境と漁業の現状と課題について説明できること。
2. 企画段階での検討、様々な機関との連携協力、無理のない運営等の重要性を説明できること。
3. 協調性、寛容力、リーダーシップをもって、グループ活動を円滑に行えること。
4. 活動の成果をわかりやすくかつ正確に他人に伝えられること。

教科書

授業の中で適宜資料を配布する。

参考書

授業の中で適宜参考書を紹介する。

関連科目

アゴラセミナーⅠA、アゴラセミナーⅠB、アゴラセミナーⅡ

授業時間外の学習

レポート、フィールドワークの報告書、プレゼンテーション等について、指定された日までに準備する。

授業概要

本科目は、地域再生学 (CR) 副専攻の必修科目である「地域実践演習」のうちの一つとして位置づけられている。授業では、大阪湾の環境と漁業に関する基礎知識に関する講義を行う。また、1グループ2~3名で構成されるグループ分けを行い、各グループでフィールドワークの企画・実践を行う。さらに、活動の成果を報告書にまとめるとともに、最終回に成果発表 (プレゼンテーション) を行う。

成績評価

成績評価:
授業目標の1~4の達成度で成績評価を行う。単位を取得するためには、
1. 大阪湾の環境と漁業の現状と課題について説明できること。
2. 企画段階での検討、様々な機関との連携協力、無理のない運営等の重要性を説明できること。
3. 協調性、寛容力、リーダーシップをもって、グループ活動を円滑に行えること。
4. 活動の成果をわかりやすくかつ正確に他人に伝えられること。
の4点を達成することが求められる。成績は、講義に関するレポート (20%)、環境活動に取り組む姿勢 (20%)、フィールドワーク報告書 (40%)、発表会でのプレゼンテーションと質疑応答 (20%) で評価する。

備考

URLリンク

URLリンク 1

URLリンク 2

URLリンク 3

授 業 計 画

授業計画 第1回	大阪湾の環境 ・大阪湾の環境と漁業に関する講義を行う	準備学習	
授業計画 第2回	大阪湾の漁業 ・サブテーマを設定し、グループ分けを行う	準備学習	
授業計画 第3回	グループ分け ・グループごとにフィールドワークの企画を行う	準備学習	
授業計画 第4回	フィールドワーク企画 ・グループごとにフィールドワークの企画を行う	準備学習	

授 業 計 画

授業計画 第5回	フィールドワークの計画 ・グループごとにフィールドワークの具体的なスケジュール を行う	準備学習	
授業計画 第6回	フィールドワークの実践 ・グループごとにフィールドワークを行う	準備学習	
授業計画 第7回	フィールドワークの実践 ・グループごとにフィールドワークを行う	準備学習	
授業計画 第8回	フィールドワークの実践 ・グループごとにフィールドワークを行う	準備学習	

授 業 計 画

授業計画 第9回	グループ間の情報共有 ・フィールドワークの結果についてグループ間で情報共有を行う	準備学習	
授業計画 第10回	フィールドワークの実践 ・グループごとにフィールドワークを行う	準備学習	
授業計画 第11回	フィールドワークの実践 ・グループごとにフィールドワークを行う	準備学習	
授業計画 第12回	フィールドワークの実践 ・グループごとにフィールドワークを行う	準備学習	

授 業 計 画

授業計画 第13回	グループ間の情報共有 ・フィールドワークの結果についてグループ間で情報共有を行う	準備学習	
授業計画 第14回	成果発表準備 ・グループごとに成果発表 (プレゼンテーション) の準備作業を行う。	準備学習	
授業計画 第15回	成果発表 ・グループごとに成果発表 (プレゼンテーション) を行う。	準備学習	